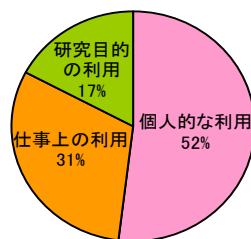


食品成分データベースについてのアンケート結果

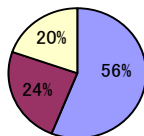
1 利用目的

- 利用者全体の約5割が個人的な利用であり、食事制限等における栄養管理の参考などに活用。
- 仕事上の利用は利用者全体の約3割、研究用の利用は約2割。

データベースの利用目的

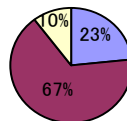


「個人的な利用」の内訳



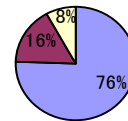
- 食事制限のための栄養管理の参考とするため
- 成人病予防等のための栄養管理の参考とするため
- その他

「仕事上の利用」の内訳



- 管理栄養士等として給食等の栄養管理に活用するため
- 食品関連の業態において業務上の参考とするため(研究を除く)
- その他

「研究目的の利用」の内訳

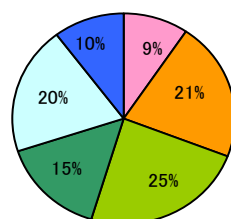


- 大学(学生含む)や公的研究機関で研究用の情報を入手するため
- 企業等の研究部門で研究用の情報を入手するため
- その他

2 利用頻度

- 利用者の約9割が月1回以上の頻度で利用。また、利用者の約5割は週1回以上利用。
- ほぼ毎日の利用者も約1割。

データベースの利用頻度

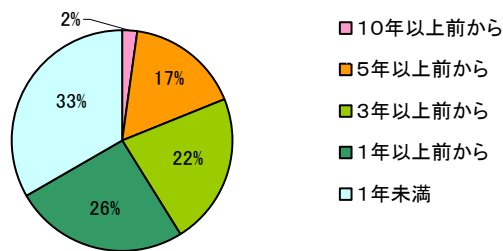


- ほぼ毎日
- 週2~3回
- 週1回程度
- 月2回程度
- 月1回程度
- その他

3 利用期間

- 利用期間が1年以上の利用者が約7割。
- 利用期間が1年未満の利用者が約3割。

データベースの利用期間



4 今後も文部科学省で継続していく必要性

- 利用者の約8割が今後もデータベースが必要と回答。
- 「必要」と回答された利用者の約5割は、その理由として「食品成分は健康維持等に関わるものであり、信頼性がある公的機関の公表するデータを使用したい」を選択。
- 「どちらともいえない」と回答された利用者については、具体的な理由として無料で現在と同等の内容が確保されるならば実施主体は問わないことなどを記載。

「今後もデータベースを継続することが必要か」への回答

